

2024年3月期（2023年度） 第3四半期
決算説明資料

2024年2月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2023年度第3四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

1. 2023年度第3四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

1-1 第3四半期連結決算実績サマリー（前年同期比）

サマリー

前年同期比～増収増益

建設用資機材、建築用資材事業が好調。各利益も全て増加。

（単位：百万円）

	2022年度 3Q	2023年度 3Q	前年比	
			増減	(増減率)
売上高	17,723	19,298	+1,575	(+8.9%)
営業利益 (対売上高比)	700 (3.9%)	997 (5.2%)	+297 (+1.2%)	(+42.5%)
経常利益 (対売上高比)	732 (4.1%)	1,016 (5.3%)	+283 (+1.1%)	(+38.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (対売上高比)	413 (2.3%)	628 (3.3%)	+215 (+0.9%)	(+52.2%)

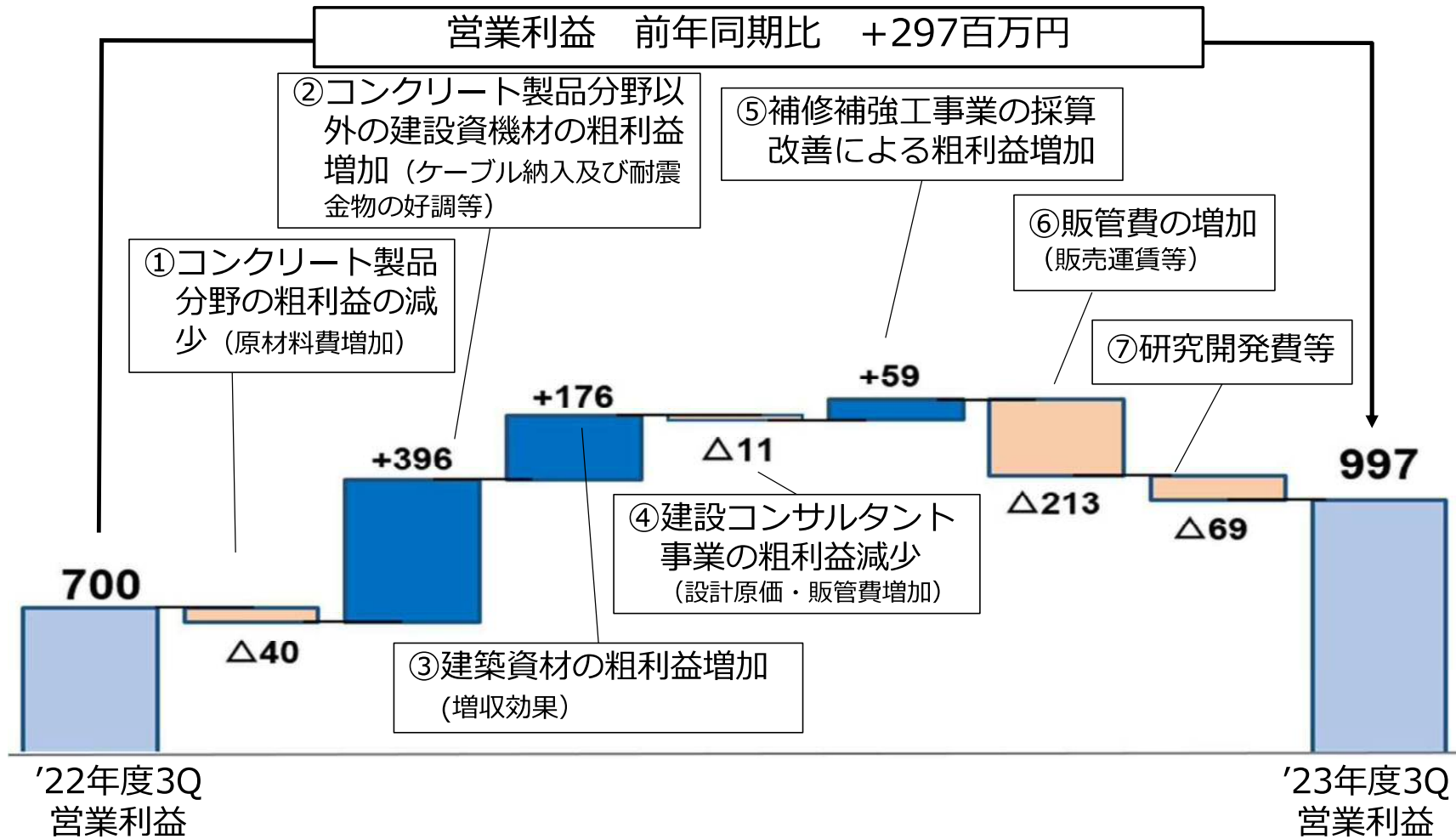
・売上高

- 建設用資機材の製造販売において、ケーブル製品分野の納入が好調、耐震金物の物件が増加。
- 建築用資材の製造販売において、建築金物・鉄骨工事共に大型物件の工事が好調。
- その結果、全体では前年同期比1,575百万円の増収。

・利益

- 上記増収効果及び補修補強工事業の原材料価格上昇分の価格スライドが認められたことにより、経常利益は前年同期比283百万円の増益となった。

1-2 第3四半期連結決算実績サマリー (営業利益増減)



1-3 2024年3月期連結業績予想の修正

- ・建設用資機材のケーブル製品・耐震金物及び建築用資材の仮設建材が上半期から引き続き好調に推移していること
- ・建設用資機材において予定していた大口の経費支出の時期が来期以降になったこと
- ・海外事業が中東情勢等の影響を受け不芳であったこと等を勘案し、2024年3月期連結業績予想を修正（2023年12月25日公表）

(単位：百万円)

[予想修正内容と要因]

		2023/3期 (実績)	2024/3期 予想			
			修正前 5月12日公表	主な修正要因	修正後 12月25日公表	修正幅
売上高		25,452	26,013	(下記)	26,403	+390
営業利益		1,336	779		1,085	+306
経常利益		1,376	800		1,080	+280
親会社株主に帰属する当期純利益		870	460		687	+227
建設用資機材の 製造・販売事業	売上高	12,067	12,967	+ ケーブル製品・耐震金物好調 △ 輸出関連不芳 + 販管費減少	12,712	+254
	営業利益	905	782		965	+182
	営業利益率	7.5%	6.0%		7.6%	+1.6%
建築用資材の 製造・販売事業	売上高	10,427	10,046	+ 仮設建材好調 + 鉄骨工事好調	10,576	+530
	営業利益	650	464		552	+88
	営業利益率	6.2%	4.6%		5.2%	+0.6%
建設コンサルタント事業	売上高	776	900	△ 海外関連不芳	762	△137
	営業利益	33	77		-17	△94
	営業利益率	4.4%	8.6%		△2.2%	-
補修・補強工事業	売上高	2,180	2,100	+ 工事完了時の増額等	2,351	+251
	営業利益	186	168		222	+54
	営業利益率	8.6%	8.0%		9.5%	+1.5%

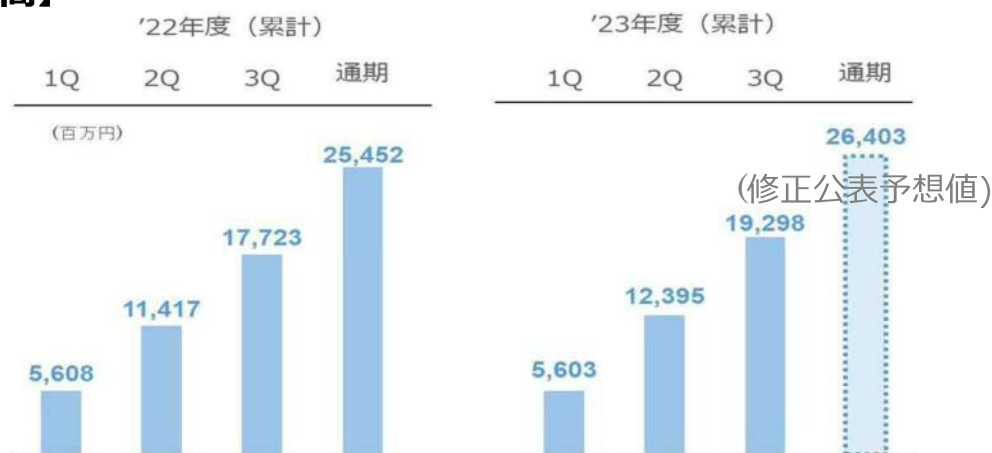


1-4 第3四半期連結決算実績サマリー(修正公表予想比)

サマリー

修正公表予想比～建設用資機材・建築用資材を中心に全体として順調な進捗
利益面では、4Qの伸びは大きく鈍化する見込み

【売上高】



・売上高

- 売上高の進捗率73.1%と順調（前年同期は72.9%）。
- 4Qの大型物件の納入が前後する可能性はあるものの、建設用資機材・建築用資材及び補修補強工事業は、期末に向け順調に進捗。
- 中東情勢の影響もあり、建設用資機材の輸出事業、建設コンサルタント事業においてはまだ不安定な要素を含むが、修正公表予想値の達成を目指す。

【経常利益・経常利益率】



・利益

- 増収効果、原材料価格の上昇分の销售价格への転嫁が認められたこと他に研究開発費等の経費のズレ（下期予定→次年度以降に繰り越し）が発生。
- 修正公表予想比の達成は見通せるものの、建築用資材の複数の案件で工事遅延の懸念のあること及び補修補強工事業の低収益工事が多いことにより、4Q利益は伸びは鈍化する予測。

1-5 連結貸借対照表サマリー

ポイント 借入金は減少。親会社株主帰属四半期純利益の増加により自己資本比率・D/Eレシオは改善。

(単位：百万円)

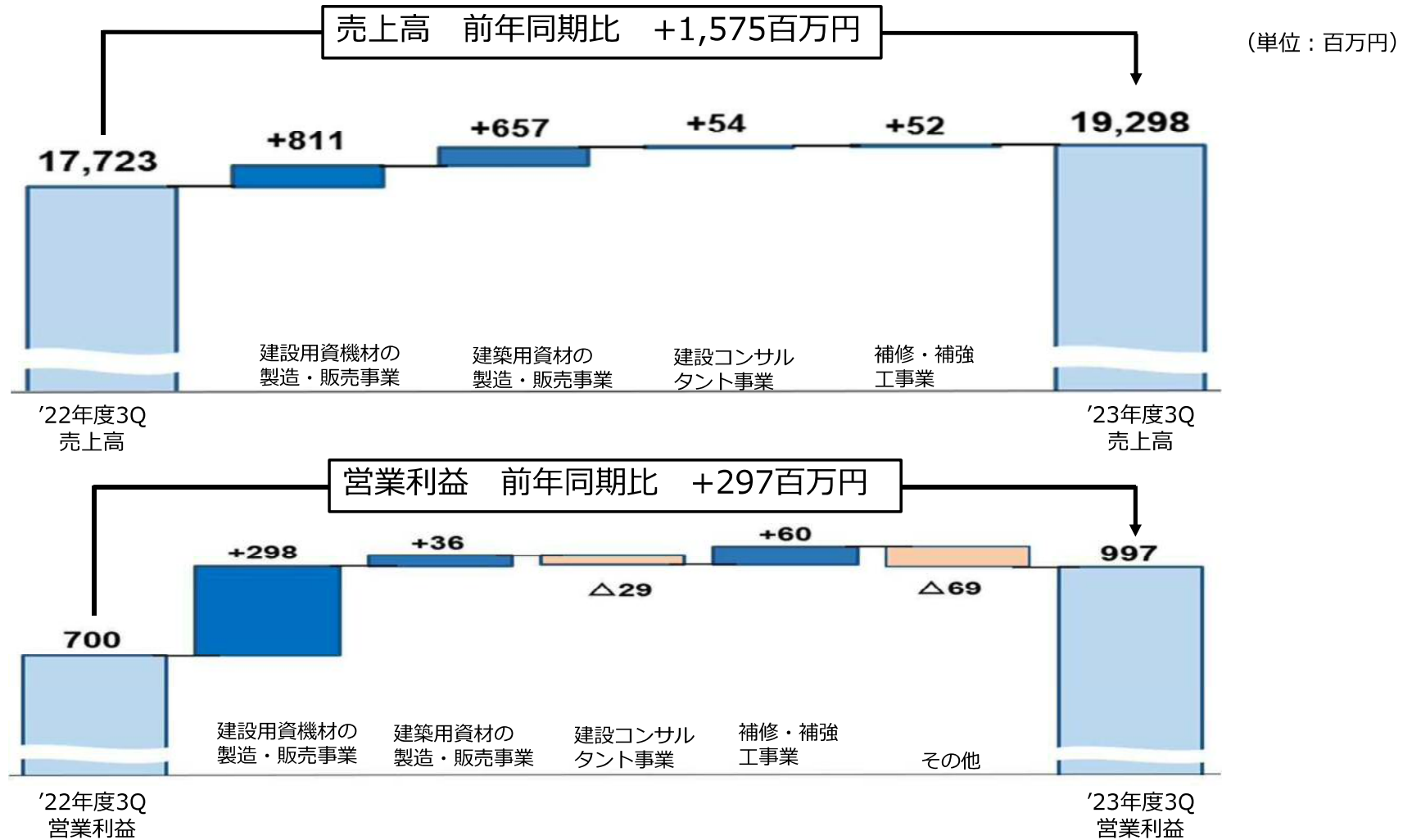
資産				負債	
2023年 3月末	2023年 12月末	増減	2023年 3月末	2023年 12月末	増減
25,493	25,228	(主な内訳)	15,065	14,550	(主な内訳)
		△1,059 受取手形、売掛金及び契約資産			△629 借入金
		△671 現金及び預金			△74 賞与引当金
		+737 電子記録債権			△72 その他固定負債
+86 原材料及び貯蔵品		+149 その他流動負債			+109 支払手形及び買掛金
					△514
					純資産
			2023年 3月末	2023年 12月末	増減
		+202 建物及び構築物-純額	10,428	10,677	(主な内訳)
		+198 機械装置及び運搬具-純額			△392 株主配当金支払い
		+161 建設仮勘定			+628 親会社株主帰属四半期純利益
		△265			+248

	2023年3月末	2023年12月末	増減
運転資本 (百万円)	5,789	5,532	△257
有利子負債 (百万円)	5,919	5,218	△700
純資産 (百万円)	10,428	10,677	+248
自己資本比率 (%)	40.7	42.2	+1.4
D/Eレシオ (倍)	0.57	0.49	△0.08

1. 2023年度第3四半期 連結決算実績

2. セグメント別の状況

2-1 セグメント別増減 (前年同期比)

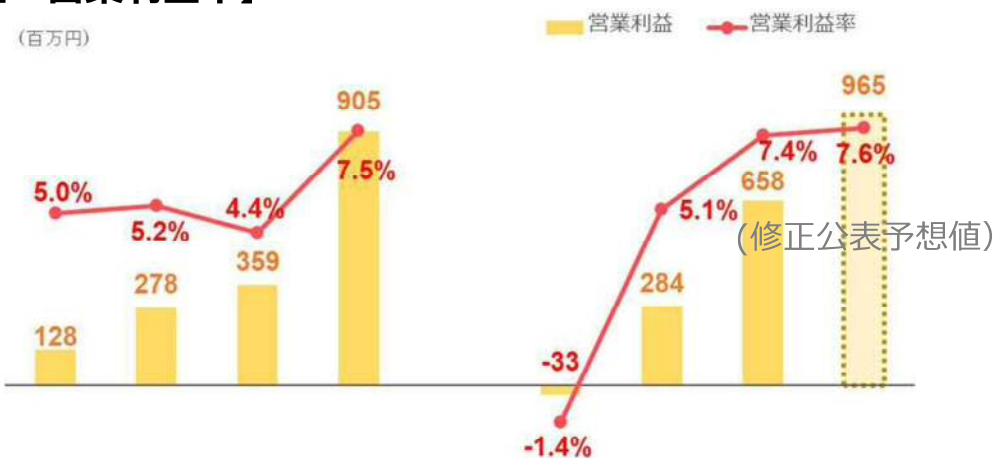


2-2 建設用資機材の製造・販売事業

【売上高】



【営業利益・営業利益率】



○前年同期比～増収増益

・売上高（前年同期比+10.0%）

- 前年同期に比べ、ケーブル製品分野の納入が順調に推移したこと及び鉄鋼製品分野で耐震金物の物件が増加。
- コンクリート製品分野においても前年同期を上回った。

・営業利益（前年同期比+83.2%）

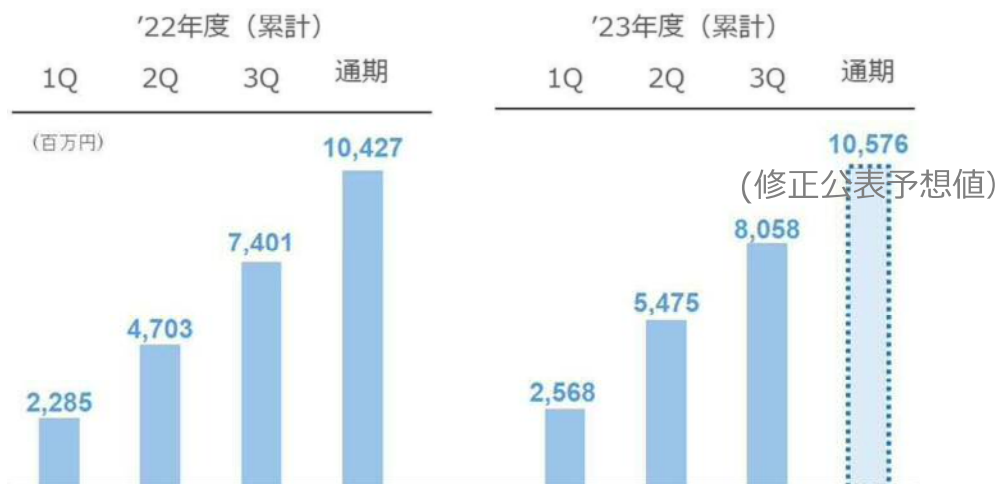
- ケーブル製品および鉄鋼製品の増収要因により増益。

○修正公表予想比～順調な進捗

- 建材輸出は依然として低調であるが、国内市場に大きな変化は無し。
- 原材料価格の上昇分の销售价格への転嫁も進捗。前年同期と比べると、今期は3Qの製品納入が順調に推移した。そのため、今期の4Qの利益の伸びは前年度程ではないが、修正公表予定値の確保は見通せる状況。

2-3 建築用資材の製造・販売事業

【売上高】



【営業利益・営業利益率】



○前年同期比～増収増益

・売上高（前年同期比+8.9%）

- 建築金物分野は、内装関連は民間投資意欲の減退により苦戦が続くものの、仮設建材は首都圏の大型物件の工事進捗に伴い、好調を維持。
- 鉄骨工事分野も引き続き大型物件が好調で増収。

・営業利益（前年同期比+7.6%）

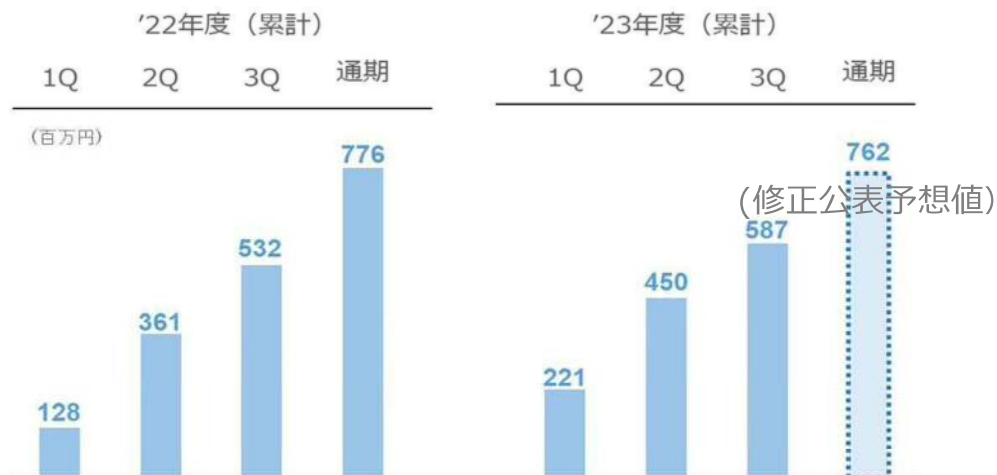
- 増収効果に加え、原材料価格上昇分の価格スライドが認められ、増益。

○修正公表予想比～好調維持ではあるが複数工事に遅延懸念

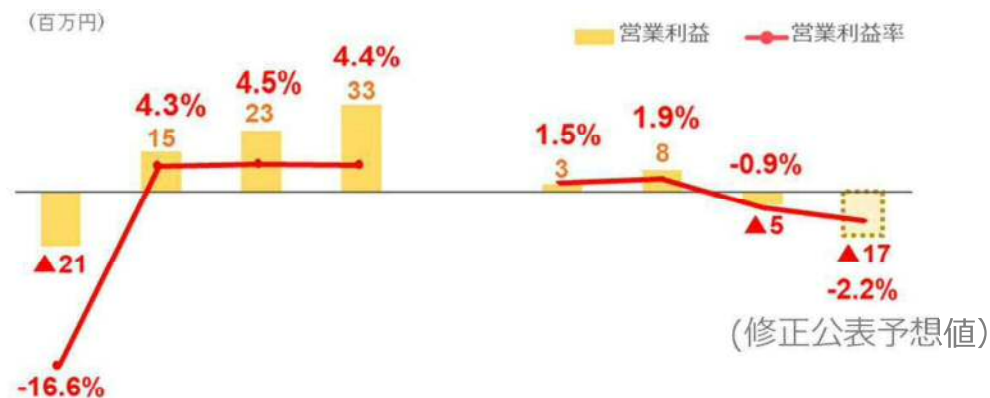
- 引き続き好調を維持。受注案件の確実な消化に注力。
- 利益面では、修正公表予想値の達成は見通せる状況であるが、4Qは複数の工事において工程遅延の懸念があり、また工場改修等による費用計上も重なり、利益率の低下を見込む。

2-4 建設コンサルタント事業

【売上高】



【営業利益・営業利益率】



○前年同期比～増収減益

・売上高（前年同期比+10.2%）

・営業利益（前年同期は営業利益23百万円）

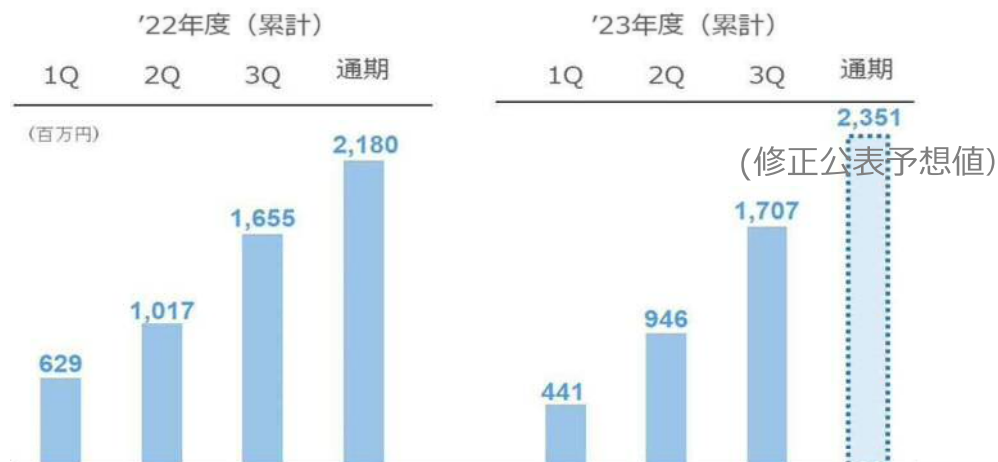
- 受注案件を順調に消化し増収となったものの、設計原価にかかる外注費及び販管費の増加により減益となった。

○修正公表予想比～中東情勢等による影響継続

- 受注案件の確実な消化を図っていくが、中東情等勢の影響による更なる利益下押しの懸念があるため、状況を注視して対応。

2-5 補修・補強工事業

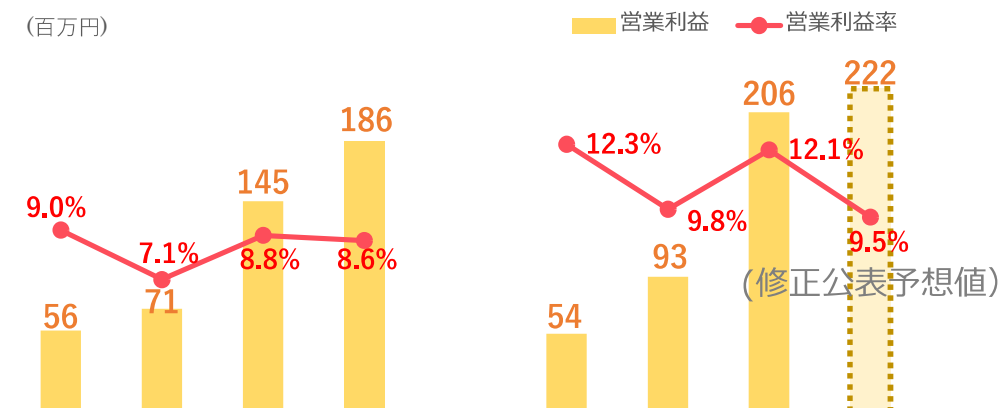
【売上高】



○前年同期比～増収増益

- ・ 売上高 (前年同期比+3.2%)
- ・ 営業利益 (前年同期比+41.9%)
 - 設計見直しにより工程が遅延していた工事もほとんどが完了。
 - 期中に受注した案件の工事進捗が順調に推移。
 - 工事完了時に増額が認められたことや利益率の改善に努めた結果、増益となった。

【営業利益・営業利益率】



○修正公表予想比～順調に進捗

- 受注環境は引続き良好で、売上高・利益ともに基本は堅調。
- 利益面では、修正公表予想値の達成に懸念はないものの、3Qでは利益率改善に成功した工事が多かったが、4Qでは低収益の工事が多く利益率改善にも苦戦が予想されることより、4Qでの利益の伸びは鈍化し、利益率は3Qより低下する見込み。

将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

